

全国知事会議 記者会見録

- ・ 日 時：令和5年8月24日（木）16:35～17:10
 - ・ 会 場：都道府県会館特別会議室（3階）
 - ・ 出 席：平井全国知事会会長（鳥取県知事）、村井宮城県知事
-

（進行役：中島全国知事会事務総長）

それでは、先ほど選任されました村井新会長そして平井会長 2 人合同で、皆様からのご質問にお答えをするという形で進めさせていただきたいと思っております。

記者の皆様のお手元のマイクがありましたら、スイッチを押していただければ、音声が入ります。それではご質問ある方、挙手をしていただきまして、社名、お名前をおっしゃっていただきましてから、ご発言ご質問をお願いしたいと思います。その際に、平井会長へのご質問か、または、村井新会長のご質問か、そこもはっきりとおっしゃっていただければ大変助かります。

どうぞよろしく願いいたします。

（時事通信社）

平井会長と村井新会長にお伺いしたんですけれども、平井会長には、この2年間、いろいろあったかと思いますが、それに対するこの自身の評価、あるいはどのような成果を出てきたかというところで、村井新会長には、今後2年間にどういうことをしたいか、47都道府県でどういうふうな結果を出していきたいかということをお願いいたします。

（平井全国知事会長）

はい。私の方から、この2年間で振り返ってみて、一つ大きな荷物をおろしかけてるな。というのは、新型コロナ対策であります。2年前は、その真っ只中にございました。その最前線に立つのが、都道府県の知事たちでありました。

私たちは、非常にいろいろと立場は異なる、大きなところもあれば、小さな人口規模のところもある。医療体制もそれぞれでありますけれども、皆で共通して、この見えない敵と戦おうと、それを乗り切るために、医師会ですとか、経済界、あるいは、国、市町村、一緒になって戦える土俵を作って、これまでにない地方の姿、国地方の関係や、あるいは、いろいろな団体とパートナーシップを組んで、プラットフォームを作って動いていく、そういう地方団体の姿を作ることができ、コロナを半ば今、乗り越えつつあるというところまでできました。このことには、関係の知事たち、そして、様々な団体、お世話になった総理や大臣、あるいは、市町村の皆様等々、感謝の気持ちでいっぱいあります。私はこれが一つの

きっかけになって、全国知事会が今、新しい姿へと生まれ変わりつつあるというふうに思っています。私たちは、別に要望を作るためにここに集まるわけではありません。この国に貢献するために、47人が力を合わせる、それが本来の知事会に期待される姿ではないか、この思いに多くの知事にもご賛同いただき、共鳴していただけたのではないか、だからこそ、環境問題や子育て、あるいは、物価対策、そして海外との関係づくり、いろいろなパイプが開かれ、新しいフィールドが全国知事会の前に広がってきたというふうに思います。そういう意味で、私自身、このターニングポイントに立ち会うことができ、私自身が触媒として、この全国知事会が変わる役割を出せたのかなと、今、2年間振り返って思っております。本当にありがとうございました。

(村井宮城県知事)

先ほど申し上げましたけれども、私は平井会長の全国知事会運営を高く評価しております。これは、私だけではなく、46人の都道府県知事、皆、同じ思いだと思います。先日、出馬表明してから、いろいろな知事に電話やメールをしましたが、平井さんが辞めるのは惜しい、もったいないと、皆さん口々におっしゃいました。本当の気持ちだと思います。コロナの大変な中で、全国知事会を差配しながら、全米知事会議を再開したり、また、国民運動本部という新たな組織を作り、我々、そして、市町村の縦の繋がりだけではなくて、横の平面の繋がりも作る、そのきっかけを作っていただきました。したがって、私は平井会長のこの全国知事会運営を基本的には継承しようというふうに思っております。ただ同時に、これからジェットコースターのような形で急激に人口が減ってまいります。従って、今までと同じようなことを進めていくことは難しいと思っております。47人の知事、47都道府県の力を一つの方向にまとめて、外に、あるいは、内に向けていく必要があると思っております。外に向けていく一つのやり方として、海外のアプローチを提案いたしました。47人の知事たちがいろいろな国に行き、それぞれの県の物産であったり、観光のPRをしておりますけれども、それは限られていると、そういったようなものを一つにまとめ、みんなで行くことによって、その国の政府なり大きな団体が、目を向けてくれる、また、その国のマスコミが目を向けてくれる。まずは、日本の物売り込む、日本に来ていただく。こういった取組をみんなで力を合わせたらどうだろうか、ということをご提案いたしました。

それからもう一つは、内にあるものでございまして、やはり行政のスリム化。人口が減るということは、職員数を増やすわけにはいかない、しかし、行政需要が多くなるばかりでありますので、行政のスリム化というものも、どのようにすればいいのかということ、47人の知事で知恵を出し合う。こういったことが

重要ではないかなと思っております。私 1 人の力ではできませんので、皆さんの力をお借りしながら、外にあるいは内に、同じベクトルの方向を向けるようにしていく、そういう形でリーダーシップをとっていきたいと考えております。

(時事通信)

重ねての質問は村井会長にお伺いしたいんですが、国際交流の話、それから、行政のスリム化といった新たな目標に関して、今、国民運動本部の本部長は村井さんが仕切られてやられているかと思うんですけども、あと、令和臨調も代表世話人をやられていると思うんですが、そういった知事会の組織の再編について、まだ、ご就任前だと思うんですが、いつぐらいを予定しているかだけ教えてください。

(村井宮城県知事)

先ほどの知事会議で選任されるまでは、私はまだ決まっておらなかったもので、まだ白紙である状態でございます。今日、選任されまして、就任が9月3日になりますので、その間に、決めていきたいというふうに思います。基本的には、会長が国民運動本部長を兼任するのはなかなか難しいとは思いますが、新たな国民運動本部長を選任する。また、令和臨調は全国知事会とはまた別でございますが、これにつきましてもどうすればいいのかということ、ちょっとよく考えていきたいというふうに思います。今の段階では白紙でございます。

(中島全国知事会事務総長)

他にいかがでしょうか。

(毎日新聞)

ありがとうございます、毎日新聞の中島と申します。本日は村井知事、次期会長へのご選任、おめでとうございます。また、鳥取県の平井知事に関しましては2年間の大変な責務を果たしたということで大変お疲れ様でした。

私からお伺いしたいのはですね、先日来、弊紙の方で報道させていただいている、6月2日のいわゆる裏工作・作戦会議があったのではないかということについて、ちょっと平井知事の方にご認識を確認したいと思っております。まずですね、今月の14日にですね、村井知事が内定をした際にですね、報道陣の方に、取材を応じた時の内容なんですけれども、平井知事からですね、作戦会議があったかの真偽がわからないと言いつつですね、総務省が作戦会議で偏在是正を強化をやれというふうに、事務方に言ったのだらうというような発言がございました。これに関してはですね、ちょっと矛盾しているのではないかというふうに

受けとめておりました、本当は作戦会議の内容っていうのをご存知だったのでないでしょうか。ちょっとその点についてご認識を伺いたと思います。

(村井宮城県知事)

作戦会議っていうものは報道で知ったということです。

(毎日新聞)

村井知事ではなく、平井知事にちょっとお伺いしたいんですけども。

(平井全国知事会長)

毎日新聞の方でいろいろと今、取材をされ、その記事が出されていることは、私も拝見をさせていただきました。私は、知ってることと知らないこととあります。それで、自分の知ってる範囲で申し上げれば、あれはいつですかね、大体、流れが決まった時ですかね、そのあと、毎日新聞さんの方で1面と3面で作られた記事がありました。それについては明白なフェイクニュースが入ってると思っています。私は、8月の8日でしたかね、記者会見で自分が辞めるということ、それを表明させていただきました。なぜ、この機会かという、7月の24日・25日・26日と全国知事会議を山梨で行いました。その後、27日に、今日来られた宮下青森県知事に、選挙管理者になっていただくという選任手続きをさせていただきました。その後、一番最初の記者会見が8月8日であります。自分としては、やはりこうしたことは、(会長選について)いろいろな方からいろいろなことを言われました、もう一回出るとかですね。ただ、最後は自分で決めなければならないものですから、自分として、これはきちんと発言をさせてもらう必要があるだろうと、それで、8月8日に表明をさせていただきました。私の表明については、毎日新聞さんの書き方としてネットニュースを見たから代わったのかと言わんばかりに書いてあります。あれはフェイクニュースです。訂正されるべきだと思います。同じ日付であっても、私は見てません、そんなものを見ていない暇もないです。10時からの記者会見です。その時に、皆さん、朝に配信されたものを見たかのように喧伝され、それが、その後の報道に何かいろいろと連鎖してるんですけども、まるで私たちが謀ったかのように、そのような書き方をされておりますけれど、そういうものは全部、事実と反します。私は、先ほど申し上げましたが、非常に純粋な気持ちで、この知事会会長職を預かりました。全国で一番小さな都道府県に、このような仕事を持ってこられるというのは、それは責任も重いです。ただ、あの時思ったのは、コロナ対策の一つ、中心を為しておりましたので、そうした意味で自分にもそのような役割を果たすべき、そういう天命があるのかな、というふうに思いました。そうして、なったからには、全

国知事会、私もこれまで20年位、副知事時代を含め、付き合ってきておりますけれど、いろいろと疑問に思ったこともありまして、先ほども申しましたように、今までの、単に、大都市対地方がいろんな議論を闘わせて、それを面白おかしくマスコミが取り上げ、それがまるで全国知事会の実像であるかのように。ただ、多くの知事は辟易としているのです。そのようなことのために我々は全国知事会を開いているのではないと思っております。私たちには、私たちがやるべきことがあるだろうと。47人も忙しい知事が集まって、皆で何かをやるのであれば、この日本を変えていくとか、コロナの対策で役に立っていくとか、それからまた、今でいえば、ウクライナ戦争や物価高対策もあります。そうした様々な課題に立ち向かっていかなきゃいけない。現に、この2年間はそういう2年間でありました。

正直、この2年間で、47都道府県は、すごく求心力が高まったと思います。山梨大会で、現実にも46人が出席をされて、お一人は選挙の関係で出られない方がいらっしやいましたけれども、ほぼ全員がリアルで出席するっていうことはありえないこと。なぜかという、さっき村井さんもおっしゃいましたけれども、皆、全国知事会がおもしろくなっているんです。私たちは、今、やるべきことが見えてきたような気がしています。だから、それを私も肌で感じたので、自分としては、全国知事会の、この今の改革の流れを、これからも次の時代へと回していかなきゃいけないと。私自身は、いずれは、会長の任期が2年延びたとしても、2年後に終わる。また、自分の知事の任期もどうせいつか終わるわけです。そうであれば、ここに自分の、いわば、やりたかった、描いていた夢というもの、ドリームを、皆で見たドリームを、リアリティとして残していきたい。その思いの一心で、私は辞めると決断したんです。私も、先輩からいろいろと言われました。政治家の出处進退は自分勝手に決めていいと。そういうものだと思います。ただ、それに対しての責任は、やっぱり自分自身が取らなければならないわけですが、そういう意味で、私は辞めると言ったわけです。それを、御社の記事は、ネットニュースを見たから辞めたかのように書いてある。私に取材がないですから。こういうことはやはり、私は、毎日新聞には先輩方もいるし、私の父親も、新延さんという人の友達で、毎日新聞に対して親しく思っているし、常田先生の弟さんも毎日のお偉いさんでしたから、そういうわけで、まずまずシンパシーを持っていますよ。それで、一緒にいろいろなことを、今まで仕事をしてはいますが、今回の記事に関しては、どうも、今までとはやり方が違うんじゃないかなと。既に構図が書いてあって、それに無理やり乗せようとしているように思えなくもない。それが、申し訳ないけど、その他の、別の他誌とか、他のメディアにも飛び火しているわけですね。私たちは、どうやって名誉の回復をしてもらえるのかなという風に思っているわけです。このことは本当に、しっかりと中島さんも受

け止めていただきたいと思います。

それと併せて、先ほどお尋ねの件でありますけども、皆さまで誤解しているんです。多分、昔の全国知事会を見ているのかも知れない。今、知事同士が仲良くなっていますんで、例えば、いろいろと今日、提案がありましたよね、そういったものを我々は、フランクに直接やるのです。ですから、いろいろな働きかけがありますよ。これは、御紙が調べられた役所もそうだし、別の役所もそうです。それぞれに、いろいろな案件を持ち込んでこられます、それを受け取られる知事もいらっしゃるし、それを事務ベースで、役所で持ってこられるところもあります。そんなところがいろいろとある中で、最後は私たちが決めているんです、申し訳ないけど。これが、今までの全国知事会と違うところです。多分、昔の全国知事会は、皆さんが、その記事で書きたいように、一言一句、例えば「更に」という二語があれば、世の中は変わるように思っておられますけども、大間違いです。私も、この間の、8月14日の記者会見で申し上げましたけれども、なぜ大間違いだと思うかという、我々、手痛いレッスンを受けているんですね。地財ショックのときに、まさに、そういう目に遭っているわけですよ。我々の方で、一般財源のリストを作れば、それで地方分権をやりますと、我々、一生懸命夜なべして、リストを作って出したら、絶対やるなど言った義務教育費が地方財源になってしまったと、これは、国庫でやれと言っていたわけですよ。我々は、はなから信用していないんです。私たちが提言をまとめるのは、我々のコンセンサスでまとめます。それを、我々自身、我々自らのパイプで政府に働きかける、それが、今の全国知事会スタイル、少なくとも、この2年間はそういう風にやっています。そういった中で、おっしゃるように、役所同士でいろいろとお話し合いがあったのかも知れない。で、ペーパーというのは私も見ていません。見ていないんで、正直分かんないんですよ。分かんないんですが、何らかの物があるかも知れない。あるかも知れないけれども、それが、我々の決定には影響を与えないですから。そこはご安心いただきたいと思います。現に、皆さんもご案内のように、山梨県の全国知事会議の結論をご覧になったでしょ。そこに何て書いてありましたか。その、ある役所が働きかけようとした内容で書いてありましたか。書いてなかったんですよ。なぜですか。それは、我々が決めるからです。私たちは役所には決めさせないんです。そこまで信用していないんですよ。それは、出身母体がどうかということとは関係ないんです。私も、総務省、自治省というところにもいましたから、私自身も、そこでお世話になったことは当然ありますよ。人間関係もあります。だけど今は逆なんです。むしろ、全国知事会の会長なり何なり、ポストをやっていると、私たちに対して、ちょっと怖れるぐらいですよ。国会議員になった先生方と役所の関係を見てもそうでしょう。一緒なんですよ。そこをはなから、悪いけど、ストーリーを間違えているんですよ。その、役所同士で

決めたことで、世の中が動くはずがない。少なくとも、全国知事会が要望したと
おりに世の中、動かないんですよ。だから我々、いつも、もがき苦しんで、総理
に何とかものを言ってくれとやるし、それから、大臣を引っ張り出して、コロナ
のいろいろと検討会をやったりする。そういうのは本当に、血のにじむような努
力をしながら、私たちのコンセンサスを皆さんの方で実現してくれと、政府にぶ
つけるのが、我々の今の仕事のやり方なわけでありまして。ですから、そういう意
味で、どういうやりとりが役所同士であったのかというのは正直、分かりません。
ですから先ほどの答えとしては、それを見たことないし、それについては知りま
せん。知りませんが、それによって例えば役所の中でいろいろと話し合い
があったとしても、最後は、例えば、今回で言えば、河野宮崎県知事が税財政の
常任委員長をされてますし、それから私も当然会長職で、そういうことにも与れ
るし、税財政の委員会は東京都も含めて、みんな入っています。そこで議論され
たことに基づいて（要請書が）出てます。だから、全国知事会議の山梨大会に出
る前の案をご覧になりましたか。その時に（御社が）聞いたものが消えてるでし
ょう。それは我々が消すんです。我々の責任において。私たちは国民に対して、県
民に対して責任を負ってますから。役所に対しては悪いけど責任はないんです。
その辺のストーリーを、私は残念ながら誤解されてるんじゃないかなと。本当に
一生懸命、取材されたんだと思いますし、全部ひっくり返すのも気が引けること
は気が引けるんですけども、ただ少なくとも、我々、村井宮城県知事と平井が関
わるような、そういうことについて、何の取材もなく、名誉を傷つけることにつ
いては、お考えを出されるべきだと思います。

（毎日新聞）

ありがとうございます。その 8 日のですね、辞任を表明される時の経緯につ
いて、私が直接取材をしておらなかったというところもありまして、もし取材が
なかったとしたらそれは、大変失礼なことかなと思っておりますので、ご確認さ
せていただきたいと思っております。6月2日の作戦会議の内容については、あつた
かはわからないし、見たこともないし、知らないし、ということで、当日は鳥取県
の全国知事会の連携調整部長さんも出席された、というふうなことが記されて
いるんですけども、全く総務省に出張されたとしてもその報告を受けないも
のなのでしょうか。

（平井全国知事会長）

その辺はあまり細かいこと聞いてないです。どっちかっていうと私の話相手
は河野宮崎県知事。河野地方税財政常任委員会委員長がそこでお取りまとめに
なるわけで、基本はやはり常任委員会にお任せします。その時に例えば東京都だ

とか、いろんなご意見が出てくる。これ、別に今回始まったことないですよ。前から大体構図が決まってまして。そこでどういうふうに調整して、最終的には我々の全国知事会議、みんなで話し合う場に出すか、その料理をする最終責任者の河野宮崎県知事とは、いろいろとその点について話してますし、例えば東京のご意見なりなんなりありますから、そんなものは、取って出したらいいじゃないと。この夏からいろいろな騒ぎを起こす必要もないし、当日出たものは、多分そうすると皆さんがちょっと拍子抜けだったかもしれませんが、想定したものと違ったものが出たんじゃないですか。

(毎日新聞)

作業は取り除かれた状態といたしますか、7日の提言案の時点ですでに削除されているのか確認させていただいておりました。ただ、6月2日の作戦会議であった、もっと、偏在是正を強化しろ、というようなストーリーシナリオですね、これは知事会ですとか7日の常任委員会でも展開されていたので、何かしらの影響力があったのかなというふうに考えております。もし、その三行が削除されているのであれば、必要に対立をあおるような強化を求める、他の東京以外の知事の発言というのはなくてもいいんじゃないかなというふうには考えております。またですね、別の……

(平井全国知事会長)

ちょっといいですか、すいません。邪魔するわけではないし、またお話してもらったらいいんですけども、やっぱり誤解されているのは、多分、構造を誤解されてます。それは税源偏在があるかないかというのは、私は山梨でも答えを出さないで、これからまた検討しようということにいたしました。でも、取材されたらいいですよ。1人だけじゃなくて、47人。そしたら皆さん何て言うか。ですから、そういう意味では、やはり今、大きな税収格差があるのは間違いない。間違いないんですよ。そのことは皆、分かっている、何とかしなきゃいけないなっていう問題意識を持つてる人は多い。それは、例えば、特定の役所出身者かどうかではないんです。それはその人たちがそれぞれ日頃、予算編成をしたり、あるいはいろいろな企業誘致をしたり、そういう苦労の中で体感していることです。それを発言させるなんてことはないです。それを皆さんの記事では、あれに発言させろ、あれに発言させろと書いてあったと。そうだとすると、それで我々が動くわけじゃないですから。私たちは自分で思ったことを発言するんです。山梨大会も実はそうです。毎日新聞さんはわざと書いてないけれども、あのときご覧

になったでしょ。ご覧になったらわかると思うんですけど、私は発言予定者で、小池東京都知事とそれから丸山島根県知事とがありました。普通は建制順で指すんですよ。まして、我々が敬愛している小池東京都知事ですから、尊重して最初にあてました。そしたら自分は2回目だっておっしゃるわけですよ。これで仕込んでいるんじゃないですか。わざと丸山島根県知事に先に発言させて、それで自分が後からそれを否定したという記事を書かせたいんじゃないですか。そういうことですよ。すごく起きないことが普通に起きたのです。その後、思い出してください。みんな手が上がったでしょう、あれを仕組んだというなら大間違いです、あの時は、みんな頭にきて手を挙げたのです。言っている内容が、あまり地方財政の、よくよく我々が日頃経験していることからして、とても容認できないと思った人たちがみんな手を挙げたのです。それを、毎日新聞さんは全部仕組まれていたと。そういうシナリオで書きたいのかもしれないですけども、それは我々の知事の感性とは違うのです。私たちは、住民に対して責任を持たなきゃいけない。特に、今の厳しい財政に対して、どうやって我々が運営していかなければいけないか、それを日々悩んでいるのです。そのような意味で、皆さん、やむにやまれず手を挙げた。普段手を挙げない人も挙げていました。私は見えてやれやれと思いましたが、そのきっかけを作ったのは、東京都さんが手を挙げて発言された内容に、逆に反応されたのです。このようなことは日々、我々の会議では日常茶飯事に起こるのです。結局、今日、宮下青森県知事も手を挙げたでしょう。村井宮城県知事も手を挙げました。誰もそのようなことを予定していません。私たちは、47人で自由闊達な議論をしようということをお互いに共通認識にしてやっているわけで、誰かに発言させるというように仕組んでいるということは、それは国会の、例えば、部会でのそのようなシナリオ作りをやっている役人たちの世界のフィクションです。我々の世界では、実はそのようなことが全然関係ないところで決めているのです。このことはぜひわかっていたいただきたい。私たち47人、それぞれ命がけでこの仕事していますから、それがどこかの役所の書いたシナリオ通りに動いているなということは、到底、受け入れられないです。そのことだけは分かっていた上で、いろいろと取材もあるでしょうから、記事をいろいろと書かれることは、結構だと思います。私もそのような優秀な記者さんたちがされたことだと思いますから。ただ、日本の中にフェイクニュースや誤解を流してはいけないと思います。私たちは、そのような純粋な思いの中で、今回も私は、思いあぐねて会長を辞めました。できれば、村井宮城県知事がこれからスタートしますので、それが何か胡散臭い目で見られるような、そのようなシナリオだけは書かないでいただきたいと思います。

(毎日新聞)

はい、知事会だけではなく、7日の常任委員会の発言に関しても調べさせていただきましたが、大体打診があったとされる県の発言が、目立ったというのが私の印象でした。6月2日のメモ以外にも、4月17日の内藤次官のレクのメモというのも実はあり、その中で内藤次官が税務局長にこのように発言をしています。平井知事に言えば、知事会の要望に書いてもらえるだろうというふうに言っております。これまでの、全国知事会までの間に内藤次官の方から、総務省幹部も含めて、偏在是正の強化について何か要望に書いて欲しいですとかそのようなことを言われたご記憶はございますでしょうか。

(平井全国知事会長)

それはないです。内藤事務次官のところに行っていることが度々あるように思っているかもしれませんが、実はこれはいろいろな、例えば人事の問題であるとか、もちろん同期であるので同期の噂話や、私の同期も最近もいろいろな動きがありましたし、そのようなことはお話をしておりますが、どういうことですかね。要望するというのですか。要望するということについてはないです。

(毎日新聞)

平井知事に頼めば、その提言案の要望に書いてもらえるだろうということをおっしゃっておられたようです。

(平井全国知事会長)

それは内藤事務次官が言ったかどうか確認された方がいいと思うのですが、少なくとも先程申し上げた通りで、本当に嘘は言っていないですよ。本当に素直な気持ちで私たちは仕事をしているので。要望に何を書くかは、例えば今回のような税財政の常任委員会が中心となって、そこに出てきた意見を取りまとめる。その背景には、例えばアンケートなりがある。当日の発言もある。その上で、皆で取りまとめてまとめましょうと。今回も多分、その手順の通りにやっていると。思います。ですから、そこに、例えば、その場で平井が要望に書けということを、私は委員会にも出てませんし、発言するわけではないです。

(毎日新聞)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(中島全国知事会事務総長)

よろしいですか、では、他の皆様からのご質問をどうぞ。

(NHK)

NHKの門脇と申します、よろしくお願いします。平井会長、私、夏まで1年間厚労省（の担当記者）をやっている、本当にコロナ対応で全国知事会は大変だったなと思っていて、お疲れ様でした。村井新会長にお伺いしたいのですが、先ほど、吉村大阪府知事からもありましたが、今日処理水の海洋放出が始まりました。全国知事会長という立場なのか、宮城県知事という立場なのかはありますが、始まったことについての受けとめと、今後、吉村大阪府知事の話を受けて、全国知事会としてどのように、この問題に対応していくか、この二点を聞かせてください。

(村井宮城県知事)

はい。受けとめですが、IAEAが科学的に問題ないということをしつかり立証しております。また、しっかりと放射能濃度を測定した上で、放出を始めているようですので、安全であるということは、私は間違いないというふうに思っております。ただ安全が安心にまだ繋がっていない、これがやはり風評の引金になるだろうというふうに思っています。従って、まず受けとめとしては、安全が安心であるということが、しっかりと国民に浸透してもらえるように、また海外の諸外国にわかっただけのように、説明責任を果たしていただきたい。これは東京電力だけでは無理だと思いますので、政府を挙げてしっかりと対応していただきたいというふうに思っております。また、吉村大阪府知事の発言は、非常に時宜にかなった提案だというふうに思います。ただし、各都道府県それぞれいろいろご事情があるかと思っておりますので、今日のところは、ご意見を出していただき、賛同する知事さんが手を挙げて賛同すると申し上げただけだと思います。9月4日以降、まだすぐに影響は出ないと思っておりますので、影響の出方などを見ながら他県の知事さん方にいろいろご意見を聞いてみたいというふうに思っております。

(中島全国知事会事務総長)

他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

(中国新聞)

中国新聞の中川と申します。平井会長にお伺いしたいと思っております。1期2年で数々な課題に対応されてきたと思っておりますが、先ほどからおっしゃっておられるような物価高騰の継続審議など、継続的な課題も残っている中で、会長としてやり残した課題が一番何だとお考えになるか教えてください。また副会長に就かされると、先ほども一兵卒として支えるというご発言もございましたが、どのよう

に支えていかれるおつもりか改めてお考えをお聞かせください。よろしくお願いいたします。

(平井全国知事会長)

広島は平和のまちであります。やはりその平和を実現するために我々もある程度、汗をかくべきことだと思います。それがさらには、県民生活、エネルギーとか、物価とか、あるいは様々なインバウンド観光なども含めて影響があるものでございます。やはりそうした、今、ウクライナ戦争が続いている中、世界中が混乱と危機の中にある。それが日本にも影響し、地方にも、それぞれの地域にも影響してくる。ここを何とか乗り切るところまでは、残念ながら到達できなかったなという思いはあります。従いまして、これからも全国知事会の向かう前途というのは、荒波が立っているというふうに覚悟しなければいけません。

また、子ども・子育てについては、これまでグランドデザインまではつくれたと思います。つまり、こども家庭庁を実現するところまではきて、そしてその中には、例えば国民健康保険のペナルティー廃止、あるいは新しい考え方として、こどもまんなかというような、そういう社会づくりをしようというムーブメント、この辺は届いてきましたけれども、例えば小児医療費の完全無償化だとか、あるいは学校給食費をどうするのかとか、それから地域それぞれで例えば産後ケアをどうするのかとか、そうした本丸の子ども・子育ての中身のところは、グランドデザインまでで止まっています、まだ住民の安心までは届いていないのではないかと考えています。このようにやり残した課題はいろいろとあるわけですが、ただ全国知事会の改革を進めて、みんなでまとめられるところはまとまって、それで同じ方向を向いてやっという、その大きな流れを作るところまでは、私はできたのではないかなというふうに思っています。今、急でしたが、副会長というお話をいただきました。その職務については、村井新会長にいろいろとお伺いをして、何か特命が来るのかどうかわかりませんが、ただ、私なりに、これまで20年間ぐらい、副知事・知事と全国知事会を見てきて、今大きな全国知事会の変革が来てると思いますので、この変革の波を決して止めることがないように、大いに汗をかいてまいりたいと思います。

(中島全国知事会事務総長)

他にいかがでしょうか。

(共同通信)

共同通信の藤元と申します。今日はありがとうございました。村井知事に2点、

それから平井知事に1点お伺いしたいと思います。まず、村井知事にご質問ですが、挨拶でおっしゃっておられました行政のスリム化につきましては、どのようなイメージを持たれていて、どういうふうにならぬ全国知事会で検討をされていくのかという部分を、もう少し教えていただければと思います。また、今、お話もありました少子化対策、これから国と協議を重ねていく形になると思いますが、どのような議論をされていきたいか教えてください。

(村井宮城県知事)

行政のスリム化につきましては、いろいろな事業が国から頼まれてやっているわけですが、まずは、この事業というよりも、全体を俯瞰しながら検討してみたいな思っています。これは当然、いろいろな団体も絡んでまいります、国も絡んでまいりますので、国民運動本部の中で、まずはどうやっていくのかということをご議論いただきたいなと思っております。

少子化対策につきましては、ご自身からお話しもありましたが、平井会長のもとで、大きなグランドデザインを描いて、政府に働きかけて、こども家庭庁という新たな組織を作ってもらうことになりました。これはかなり全国知事会としてエネルギーが必要だったのですけれども、全国知事会長が先頭切って頑張ったおかげでここまでできました。ただ、具体的に医療費の問題、学校給食費の問題、産後ケアなど、先ほどおっしゃった通り、中身はまだこれからということになりまして、こども家庭庁の考え方を聞きながら、それに全国知事会としての考え方を取りまとめて、ぶつけていくということになろうかというふうに思っています。まずは、これについては政府の考え方というものをよく聞いてみた上で、これで我々は「それでいいのでしょうか」というような形で持っていくというのが、筋としては正しいのではないかなというふうに思っています。まず、大きな方向が出た段階で、まずは我々の考え方をぶつけていきたいなというふうに思っています。

(共同通信)

ありがとうございました。平井知事には、村井知事のどのような面に期待されているのかという点について教えていただければと思います。

(平井全国知事会長)

村井宮城県知事は、私も初当選の頃からずっとこの全国知事会の改革を夢見てきた仲間でありますので、新しい「共にたたく知事会」という、私も提案させていただいたものを、これをぜひ、これから先、未来に残していただきたいというふうにご期待申し上げたいと思います。そして、こういうお付き合いの中で

自分自身もずっと感じておりますのは、やはり危機に当たる人だと思います。今、クライシス。それはかつて、コロナという問題も当然ありましたし、今、戦争と平和ということもあり、物価高、あるいはエネルギー高、それから生活困難、様々な危機がある中、今日、村井宮城県知事は、どんどん人口が減るとい、今、岸田内閣が、いの一番に上げている「静かに進行している危機」、これを最優先の課題として取り上げておられました。こういう自衛官や、あるいは地方の現場からずっと積み上げてきた危機に対処する力、そのリーダーシップに私はご期待申し上げたいと思っています。

(中島全国知事会事務総長)

ではそろそろお時間もかなり迫ったので、あと一、二問ということによろしいですか。

(河北新報)

村井知事にお伺いします。長らく道州制の導入に賛成の立場で活動されてきましたが、新しく会長になった場合はどのような議論から始められるのかお伺いできればと思います。

(村井宮城県知事)

分権を進めていく上で、道州制というのは非常に重要だというふうに私は考えております。ただ、これは我々だけで、いくら騒ぎ立てても前に進めるわけにはいきません。やはり国が本気になっていただかないと駄目です。つまり、卵の殻を上と下でたたくように啐啄同時で行うことが必要だというふうに思います。残念ながら今国の方でその議論が全くなくなってしまった、止まっておりますので、その議論を見ながら、必要に応じて議論を高めていきたいというふうに思っています。国への提言の中でも、道州制についても項目を定めて、議論をして取りまとめておりますので、全国知事会として何もやってないわけではなく、常に関心を持って見ていると、一番我々に影響があるわけですから、関心を持って見ておりますが、残念ながら今の段階で我々が動いたとしても、国がそちらに対して関心を持っておりませんので、その様子を見ながら、タイミングを見て、活動を活発化させていきたいと思っています。

(河北新報)

平井会長は道州制についてはどのような考えですか。

(平井全国知事会長)

これについては村井宮城県知事が、これまでもそうした道州制の議論を提言してこられました。地方分権推進特別委員会もごございますし、そうしたところで、みんなで今後も英知を結集していくのかなと思っております。

(中島全国知事会事務総長)

よろしいですか。それではご質問ないようですので、以上をもちましてこの会見を終わらせていただきます。皆様ありがとうございました。

(村井宮城県知事)

どうもありがとうございました。

(平井全国知事会長)

本当にお世話になりました。ありがとうございました。